

# 管球王国

TUBE & ANALOG 2020 WINTER Vol.95



最新プリアンプ19ブランド／12AX7を聴く(後編12種)

アルテングA5、A7／良品フォノイコライザー14機種  
是枝重治／KT150PP大出力パワーアンプ  
新忠篤／ルンダールトランジスEL34アンプ

## クリーク OBH8 mk2 ¥30,000

透明感や実体感も表現できる音楽再現性。ビッグバンドの大きさ、重量感を感じさせる



●入力端子:1系統(MM、RCAアンバランス) ●入力インピーダンス:47kΩ ●利得:40dB ●出力端子:1系統(RCAアンバランス) ●出力インピーダンス:100Ω ●寸法/重量:W100×H48×D80mm/400g (電源アダプターOBH-Uni含む) ●問合せ先:(株)ハイ・ファイ・ジャパン 03(3288)5231

背面の入出力端子。左にアース端子。ACアダプターにはDC24V/0.5Aの同社OBH-Uniを使用。

クリークは1981年にマイク・クリークにより設立された英国ブランド。ローコスト／ハイパフォーマンスを旨にCDプレーヤーやアンプ類を送り出している。OBHシリーズは単機能のアンプで、必要になったときにモデルを追加できるように考えられたシリーズ構成のコンパクトな半導体式。本機はMM型専用モデルで、入出力端子はRCAアンバランス1系統。イコライザ回路には表面実装の抵抗やICを用い、ポリプロピレンのWIMAコンデンサーを採用して精度を高める。

岡田 この曲の特徴である透明感が感じられて、好ましい再現でした。再生音の音楽としての完成度が高い。フォノイコライザーアンプの場合は再生特性がずれたりすると誇張感や色付けとして表れてくるのですが、そういうものがなく満足のいく再現です。それだけ聴き込んで開発されたのだと思います。弦の音は聴く人の好みで評価が左右されますが、私は納得いく音で聴くことができました。

新 「トニー・ベネット」では、ヴォーカルの温かさが上手に表現されていました。それを支えるピアノとベースも滑らかな肌触りで、音楽的なまとまりが良好です。ここでもこのEQの作り手の音楽的な理解の高さを感じさせます。

岡田 「トニー・ベネット」はゴージャスな印象のサウンドで始まって、イントロのピアノの後にトニー・ベネットの声が出てきます。年齢から余計なテクニックは使わないので、いたタイミングで声を出し、とてもジャズ感を感じさせます。こういう点からも、よくできています。コンパクトで、LPを手軽に楽しめるという点からも、よくできました。フォノイコライザーアンプだと思い

がるメナヘム・プレスラーが弾くピアノの音や、ヴァイオリンとチェロの美しい音がとても印象的でした。

良いというのではなく、トータルで完成度の高いジャズが再現できているということだと思います。声の質感もうまく再現されています。

新 「エリントン」は、MM型カートリッジらしいウォームなサウンドで再現されました。音場の再現が好ましく、録音時に意図された広がりのある空間が展開します。スピーカーの左右だけではなく奥行き方向にも深く音場が広がり、個々のソロ楽器、ピアノ、トランペット、サキソフォンなどが浮き出し、それぞれの特徴を聴かせながら美しく甦ってきます。音楽再生というものは美しい音でなければならぬという、作り手の気持ちが伝わってきたように思います。

岡田 「エリントン」ではビッグバンドという楽団の大きさ、重量感が感じられる再現でした。その中に、トランペットやサキソフォンなどの輝きのある個性的なソロが出てきて、50年代末の旧い録音なのですが、名手のソロを含めたデューク・エリントン楽団の素晴らしい音楽を楽しむことができました。全般に大人の雰囲気で、音が云々というよりも、音楽を楽しむという目的をもつてこのフォノイコライザーアンプは作られているように感じました。

新 MM型専用の半導体式で、バランスの取れた再生音に仕上がり正在と 思います。実際に聴きやすい再生音です。

岡田 MM用としてしっかりと作られていて、透明感や実体感も表現されています。コンパクトで、LPを手軽に楽しめるという点からも、よくできました。フォノイコライザーアンプだと思い

ます。

新 「ドゥムキ」を聴いて感じたのは、音楽を十分に理解した人が音作りをして全体をまとめたということで、その点でひと味違います。これはイギリス製だからどうということではなく、音楽的な鳴り方、聴かせ方をするということです。静けさの中から立ち上

岡田 「トニー・ベネット」はゴージャスな印象のサウンドで始まって、イントロのピアノの後にトニー・ベネットの声が出てきます。年齢から余計なテクニックは使わないので、いたタイミングで声を出し、とてもジャズ感を感じさせます。こういう点からも、よくできました。フォノイコライザーアンプだと思い

ます。

岡田 「トニー・ベネット」はゴージャスな印象のサウンドで始まって、イントロのピアノの後にトニー・ベネットの声が出てきます。年齢から余計なテクニックは使わないので、いたタイミングで声を出し、とてもジャズ感を感じさせます。こういう点からも、よくできました。フォノイコライザーアンプだと思い